

宿直草卷四

目録

- 第一 祢にてよしとひゆす
第二 まゆり 猪ハモウ事
第三 まゆり猪とのゆす
第四 わゆくとよくとくもむか事
第五 救生にて神罚あらゆす
第六 てばうんぐせのちやうとく事
第七 七人のまわ中も女よみゆくにまつたす
第八 お食とねむじ狗の事
- 第九 月新と大とくろうす
第十 痘もくろうばくげ物とくひゆす
第十一 いざりと班とくへ事
第十二 いざりとびきみはくわくじゆす
第十三 情恋うちか房よもそくへ
第十四 魔法とまく山伏の事
第十五 まくひ人のまづかくの事
第十六 智ありても畜生ハあきらめたす
第十七 犯とうじさんあらゆす

高麗本草卷之四

第一 わこまことの事

荷川 蘭谷は亦國乃きに於て、のこきもとものよ物を
うめり、ゆゑもては山より靈園かおてどすれう
ち承食あくまき山よりくみあらくとくろうと
あうひうけまくらあらわらとくらふばりれ内
ぱりくからとくを御よえ、こうかまくらゆを拂
炮までとくはめくまちとくふのんをあくまで
うこうふきうよ月やうく更てり、あうれ
かよゆるとくをうがくまくよ。我母おもがお
とくじてあらざくいがくづくあう剛のあ
きを。サ四町乃垣はなとひくらとくぬく
あらへりねあらまとくうどくそこさめ。宣うて
もくそへ行。一矢づき物と御よあき

つよくゆよあきか、さても又ぞけうるをれ
うそもあうきどもと金盆かなぶんうづひ、がく
もくきもあくへくまきくびくあやせらる
あうれ考のとくもあくうくれどくくじんよ
もあくもあくあやせりうれどくくまうて犯
出乃らうぢふくとくんとくらうきくひきあわり。
あくうぢふくとくんとくらうきくひきあわり。
まく引くとくまきくもくうきよあやまじある。
あくうぢふくとくんとくらうきくひきあわり。
あくうぢふくとくんとくらうきくひきあわり。
あくうぢふくとくんとくらうきくひきあわり。
陽居乃門口までひきうざれをうそとありひ。狗
うちさうざそ因へよくハハ小大在せう。まこと
うわく思ひよ血ひるばあくきあくよほ



あらうちふ橋みよりて。とくめことあらうるふ
 じくはひきひきうせとくものねこあ。居
 そりとあり。是れゆこく父母をとまひをあ
 ざされおきよすよるにあはりとづく。され
 はくとくの人のふかむる。事のあら
 ようちもとつをあくまとや猫むりーをけ
 人の仕合きり。かあん人間とあめぢやあん
 第二あくわときをくらう事
 まかあ大坂の町をりよ鴻見れ何うなんす人
 鹿ハ東よ居りよ大坂よもへたぬもう。情う
 うれしがよ。ねづくさあおこきを刃ん鹿
 横幕堂なれどばひのる寝間までも伽とそ
 出へらう者あり。あら井池田向かひとひと御
 乃とくひてあそびもさへ紀奈行のむとこで

はるにめぐる事よりくよがくらじうを経
をめれぞ。ざきもいとぬだまつりて、源のちふ
すとよどもて、かみのけわ。ナニニ乃ニ
めく。庵^{アマ}とて、かくにづ
ふねく。御^ミもあさへど、あらせんじゆにむす
とくまへもあづまく。あまをさき
ては、ひまとうじやくへづきのありえだすとよ
やれとく。あまを燭^{スズ}よりてみたもの
あまをく。燭^{スズ}もうくあまとしもく
かま^{カマ}。さきのよあざれをそわよ氣^ヒうべ
いふね。としひととよあふまうりき。た
とひまく。とよあまをあまうちち
めんどう。おじふとそぞり。とよの繁
ちくやまねあく。時もせんじよびのねをあ
四

宿直草 卷四

植^シぎもあく。せんとくよざれ。燭^{スズ}もうけをうけ
壁^{シテ}のくじく。くま。とよとあまうだり。と
くまとあり。うらうはく。とよ壁^{シテ}よきりをう
き。こめく。うがく。とよ。とよ。とよ。とよ。
燭^{スズ}そひきり。とよ。とよ。とよ。とよ。
とよ。とよ。とよ。とよ。とよ。とよ。とよ。
人よしげ天^{アマ}燭^{スズ}よ。うく。うく。とよ。とよ。
じく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。
うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。うく。

きのとあるどりども匂くと恐きうり。者
と三毛のねどもくひのうのづちふうと
まてもすゞしくとまれ極よし。ひしきと
死をひく絶。うらうれとの生れつまことど
もあくとほくよがをと服よさびりけの
うんどうすゆくまくのく化粧てを
つまどのりふくらぬびゆどねどうにわをく
と解よびととづれくとオとあくつひばあ
れとひよやんとまくろじぐくとび玉の
あくらふ人とすいおひかくとくとく
とせどりて是成れり。あくまくの着成
さきそがれどとせきとせきとせきとせき
の翠巻ひく綱ひきぐ縁ときり。袖のあふ
あふらうとてれまくあせくとせとそくと

あらわゆはまそちのねまうせとうわ
のふせりそもとま三味のうふきりて。行乃
うぐみうちハあくとゆれりもあく
第三とくらありとくとくす
猿の情をみうとまうと人の物とほめ
てくらとまとまとまとまとまとま
しりくらりのもの。ようう男とくらひとま
齋の事とまとまとまとまとまとま
ちりくまくまくまくまくまくまくま
をこそ。意の事とまとまとまとまとま
よろ縁よもやくももくももくももくも
ゆくよけ猿うくやうよばゆれとまくと
もあくとあくとめいきくまうありとまくと
ううううううううううううううううう

みくまゆりハ嘆よ物もてありとやうて。まくま
よハあゆのどもよよれひてやうんといつよあん
をやもなくあら肩ねきまく入るよ物もあり
どりもれきばあ六歳ぞうり歴のあれれり
さうううそちうかそそそそそそそそ
きくうそそそそそそそそそそそそ
前よりあううううふ一乘もうまび三ひと
一とせみもゆくよどり狼とつる畜
生じくもまくをあきり天膳あたまれ男
よハ延壽かく乃トを伏るうどや。あく一擧
ちぐく。只一口の不患もあくんうよひくを
やうよまき人とあくと並て蓋あくされ
あくと換あくれ

第四おくりよくりきめく事

まくまゆりとくらをよ物もてやうて。まくま
りく村あくえねまくの物ねまとくら。まく
きうあゆと九よすいりうととまくれ徳重へ湯
とくらやくゆうてみのまくらをあくわきくん乃
いと。あくまく小桶よ入あゆうつてまくら
がくらうちむくら。あくちあくの下
の弦みぞれつよ樹て風もくげ。わくも圓井も
あくまくとよき。まくらこ人といそひくらくくま
てゆくに。桶もといゆくふくまくら。のそめも
りもくらあゆうびくをろとやくとがくと
さくべとたまくらをゆく。まくらはくよくら
あゆの車で。ぐゆとととねとよふ冷と火鉢。咽
てまくく猿きんとくんでゆくくともあくよ

宿直草卷四
七

了と極まつてよあんのとくく狼ひともとくくよ
とくくよつとくううとく。狼もくと狼ばうげね
がくうをたら神もく。あく山うてゆくえあ
もくうり。かやきそれもくうり。じもくうり
とくううきあけ。とく。もくや服ひもくうり。
よくひもくしてくくううきといもくまくま
もくしてばくよし。くがく
兼々 狐生て神罪あら神
あくまつひむよへて廁すきく。敵名のうよ大
きう法師あり。あくふあくみやうくをもくれと
ききげ。うう行き肩また。一刀きり。まく四角
二三すかう。のものうきうてみくび。そくる
うとまくに。方ちもくしてゆうえをやくく
よくげとほくよくくよく。よく伏り。まく



ちとすへどふありよま妻みくわど縫きこりそ
も何事モ肩一そくかる中こテ而も代わ
りとるがなぐて。されば作天してやうるふ。紅
才と弟へり。きく治まれどもからうてゐ
ゆうりぬ。かよハミテうともあせり。かよハあき
とて男子かへとて御もあひ。後家も大坂
よ牢居せり。かよ中こそう人のくらう一
そ人こそ天照大神の御りめ縫ふ地こそ殺
生せり。縫うりとくらう。今の仕事もそれくら
や。終地よおり知りよ御て絆ともう約どれ
賤とあく。山とくらう。宿魚殺生せり。行幸
生林が御乃場よおほくらう。も用絆あく。人三事
よやそのと士官の内様のとくに膳猪とく
ウ神。ほあよやまのとくにとくめよあひて

水清乃利とせ

第六所領ノンゲハ殺生ミシム

まことに人ありの家とて禄も
うめあるて官経りてたく。か景あり
てほのよ御とあひびてのむらへらす。同
あゆめどもえりげん面すのゆうて或
秉あ氣りてくじ。うきの蓮事山の鑑は
ひよ。うす層とりかく主は四人さり
みゆく行ぐとあるよ。大きうけり。疊
重くるをきらよ。とくそ人ひとて考
くとハ云ひ。もうやもうだに大きう
きうみのほんをうそ。人のうるよう
う。さてあわてつゝやう。またうそとも
うんや是れとくへとのふ。人と

かと申よこめてまふひざうぢもくわ
りつくりかげん大尉の人がわい調平
あら勇すれどもまよひてへき様を
うさぎゆく様がまよてはあつまつと
つよの侍をなぐりもの山角とす。まじめ
神のものとくわん。

第七世人のまひやも嘗ひゆうにすたす
耳なれろもあらん娘とまう家より
太あら娘よ小使風とびよの向とてひそ
隠薄せよげしとくハそのわがまぞなどたり
多もだもとくわくまくわくて娘鬱うて
くわくわくわくわくわくわくて娘鬱うて
うくわくわくわくわくわくわくて娘鬱うて
うくわくわくわくわくわくわくて娘鬱うて
うくわくわくわくわくわくわくて娘鬱うて



乃事の如きをかくのかくわざりしる
とてうち捨てぬ乃嫁もくまやうな
よおきつゝそりふじとくを思ひ入る御を
もくとくぞやくあやくちひ相人と
もくとくとあむもくれどげ大にひづれを
さうにとくとくとくとくとくとくとくと
あいとなくもくちうあざをなどつひと
畜生をくすくすくめくろうや一ゑびきく
ハセモキテアマト方見てそとひあらやせ浦
あだ。さてハチくたと姫よみればあて
ながくをな。我よみろちくあらうよこ
うと途をみれろ山よあとたく。おりと
きふづくくちうもくくま風巣るりれざま
きいづもいきゆああんあ

さりろも櫻樹もあるべまくまくまくのく
いたこよとくとくとくとくとくとくのく
堅りの神のくじいわく年よ鼻よ行よ
あとほぐたりとくとくとくとくとくとく
うでまくの櫻^{シラカシ}とくとくとくとくとく
くねどさんまハキふりとお代きとつともと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あるとくにゆくとくとくとくとくとくとく
桜もみくよそのすゞとくとくとくとくとく
風情よかくとくとくとくとくとくとくとく
おとくとくとくとくとくとくとくとくとく
それともまのまのまのまのまのまのまのま
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
一とくとくとくとくとくとくとくとくとく

かきみづくをうるおにまのれわゆるひり
るしきの脚もありでよきうちよりもじ
りとびあらひくわざとまくしたまよ
りとといふうるへどくあらむいとでもと
おりづぐよもぐるるよちもそゆふ
とくよをハシメとくの辞よてあらがふ
そんまりよろじくべくわざとくげきとある
すゆゆよ例乃たみたりまじをもく
しろさんとありしめよくわてゆあらがふ
よもだらりとくしてゆ一くるふうち
ふ安きいきばながくわきよくわとく
あらうがくわがほめ。見とくてもくふく
あらはくわとくよわとくよられくさうだ
かりきよあらわくよすくわきゆりやうり
かり

あわづれいもとあくとくちりふくまてさ
そやうよけねくわくのうけの
りく。うわねくいとくとくとくとく
もくわしのま。我つまごをま
く。まくらりおりおりおりおりおりお
たりあに方かれぞうれあくよゆせそざく
そひゆう。うのまもがくらわけぞう代七
人まできよをたり。うづあるあくとくくわ
がそひくわくわくわくわくわくわくわく
うづくとく後せりとく。あふくとくよくわ
ふくとくれりあくわくわくわくわくわく
わくとくれりわくわくわくわくわくわく

せり川よ瀬ざくして、よりはくらでよし。ハ智
てあふかむこきりとせ、宿よひひくひせり
まくとももちうぼうしてじけよどくもみ
多き事わらばちりうせとお、じきどいとあ
らす。またもきにえびをめりて、うるす
なうみのれぬまでもんぢりよまび人ハ神ふ
ぐくもどりうせ。されどそほくまふ
とくのぞく。新とくまよはあくび。そく
がくはくをさきりせひもうぐたうとんま
きをせて、ぐみくがまくふゆうよすな
ちまく。とあくく令あくもねづかく
乃御名きんじあらうきひこちもくび。
卯月の一日よ御よあくろ能磨まうぶ
う鶴ひだいのりくん

第八度念とおもじつむりヰキ

寛永七八年の時河内角やとトウ多良
木の在へり。もん高人ありきのとくを
す。あらばけくもあびくくどうくれる
を間屋の下女よくくくべをひひの處の
えまげつて、ふば下女と肩ひまあるとふま
る。うと井戸下女ものようふゆ。ぎたる
事。こそくべくのひくり。桂よ入とまひ
よじくねえれど。彼がよととよもきく。細よ
アカくもあらうものあ。とくとく。う。だ
まくともくすり。かくのひく。かくのひく。高
人まくともくの。一教乃キソドはを

又おどと下女のひもく彼のるばおりがん
されどお六ゆふまうりてりゆゑとおせ
とくまで附よりまじで我つをそなへんとま
表きよ人えうまうそか面の戸あくはりと
忍ふまく中戸のくらうあくらうとくゑを
いにも海よみぬ白たらうちくとすま
し大巻のとくあぐりそれより筋易小ちゑ
うのとくやもくと花あぐり桂くらへおり
てよあきやううめうもあくひりみご
とくとて戸とあきよもとあらておへうびふ
まわりさぬあらうなち人ちよへるうじぞ
ぬを人へるうぞりと附多くあくく省の事
又下ゆばとび桂乃とく創り敵人仰ふら
ひくめりキなづばくわよ勿絆だがく

りとりふ草やま帰きとてうてわきハ
うくの戸あきそりとく狗のりぬまんと
まくじねくわつきてアシタヘとくあきくの
りつよぬせくはりくみにうちよますナ
新をあきれとくと蟹網ひりばをくじ
とくれ轟生りづんとくふくの戸あけく
をちくべまくとくまやりくかとあらうだまとた
き方づくじてうりぬまとこめくとくとけ
きとくじもくわくとくゆれづの高人の
附一卒くらへくあくよんよらしこうがふ
とくとくわざとく豊横のあくとくとてゆくばを
とくとくわざとくとくとてゆくばを

とあくまでも小さくありて都としてれども嘗て御
くぎを立つてから入るのを記して又はお大二隊
をそぞり喰ひあらりとあくまでもて一りんとす
恐るべからりうけられどたまふりうかのをと
さうり写りゆくいやすりがへつてゞがむりとあ
やうくぞ見くともちのをあらむて東むにさうれ
とくといをとあらりとあらまぬ人よへまむり
ありてそまのぬこらさんとひめをとゆくあ
そくふす。商人も多うせんとうゆうよくび
ゆびとくらん轡うりうがどうハくれうりくふ志
らば事氣と聲をべくば數相ひくら是と樂
もうりとくとくと人とはくへぐく思はず
大乃とくと下女のゆきいふる

忠乃ううううううううう
じとくの朝がまの朝がうううう
正直の神もわらま人のくらびうふうりある
名代而よ亮られよりしのかひよぎりひよあ
あり。唐俗が忠も呻曲が後ふくらそお。さ勇
士も珍みづくふうよ晏代事務よ景公乃翁れ寵
とうきく出くとくあれ威どくり入てハ若れとく
らよありとりのく害あり人と痛りいまとく
あよりてあつよう人剣ひよくあらじ
馬とくてその腰とあらじてをかくのり。ド
う代をすく退屈すくまじきよ歸をまを駕れあ
まむゆう

第十九月新とだくゑくヰ
あくまもれのそりまふまとばくの

ゆく月は清き月うらをきよつましれ。まき堂
ちりそばくめきとみね玉のじき眞山もく
やとわくまくおさざめいとくもくとけあむ
て極く声もさざふくろ涙ありあり。殊とりに
とく絶よ塘とくくぬ白あり。殊とりに
とくぞひくのふぐあづふゆげぞたも詠よ
とくまわぞりぬもとくまわうづく選とくひ
ほナ里町ゆくよ一聲わゆすきよ
それよりば乃堤すはうりび翁ゆくまちを擇
なりよ大刀くばなうこきいふとくのくえ
り、くりて忍きをりぬあり。まおがりひとき
よ行乃別のまきまき。湖みよくまくり月乃
新ううらりきりだじきりとくま月とゑく
ど月とくぞくそくまかくだよ見まんとせ

くぞく大とばくくみとさくがり。一念乃慈
とくろひるきのくそ。ナ里町まくくり。うりく
ほきやすくとくらんとくらひ。とくまくくれを
とくわくらくわくらやこのまくえ。グ翁もくそ。黒石を
穿ち玉籜う鉢やぶ里て深閑とくくろとくひ。虎
とくくくつ矢も巣よめいとくく。やくとく
乃あく。唯識乃きよくとく海よニ性とく
徧計。徧計乃海。ひも。成實乃ゆうなうふく
こそ。いまくらんとくり。でゆくらん事
と済。経うじく。もと。れゆく。の。舍
修。修よまくばとく。事。事。とく。ひく。観。う。内
くく。の。ゆく。とく。まく。ひく。とく。
第十のゆく。とく。まく。ひく。とく。
やく。ふ。燭。とく。まく。ひく。とく。

戸あけてゆふやうにまわりよえまわりの
あらわうじがけものとあひるやいがとふ
さうあそびをきくげわきさんとせうど
ばくのあくねだくばうづわうあう
りちくよりまつたとあまみうとまくべう
てまくじげのとくとおうく。あれども詫
まうち竹のす乃根のとく。いう
らまめづき物とおしゆとりてこよろ
事ありとくんじ何キドコとあるとてゆ
新よだに彦齊とくあけとくみわうら
のとくにんじづりやうかく神うに海よ
新もせじみく。肉の下女ゆくとくうりの娘
とくにてたとてゆくとくうりひくとく
つひうさうとくとくうりうらきとくとく

アラ
第一ゆうりと
まく人あくまくあくめく
もくはうう肉たタヒ
うくふくくまく
まくはれどけのあくとくふすく
まくはらうんえとくわくとくのゆく
とく月とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とく月とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とく月とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もやとおひ。本屋わざを抜く。ひる乃ちそまく
とり。どうくとくつまうふの者。我ら
まばたきをあくとよふゑ人なり。すてあら
うちの者ぞとひへど。あれきづのまくわりよ
もじみがりよとさうかげよ。ぬ向角よ門よ
水よ。まよせうべきやうはごく。常樂む禁
け門へまくわりよとさうかげよ。我見
きど。まくわきとまくわく。儀とせまくわく。ひよ
うよ。まくわくね。蓋。まくわく。の蓋。乃ね
まくわく。月。まくわく。新行のうく。る
まくわく。おちく。とひくわく。おこく。もあくわ
なうとく。ん。お。わく。あく。麻。はと。うく。人
が。あく。う。ど。へ。山。が。よ。う。と。ま。じ。あく。や
あり。いや。まき。そ。で。ゆ。

第十二山

山。す。五。そ。徳。ゆ。め。う。あ。う。日。里。と。く。ま。く。ふ。よ
て。目。く。れ。く。う。く。と。く。史。器。一。は。の。ゆ。い。内。あ。る
も。く。ゆ。く。ひ。ゆ。く。よ。一。乃。ち。か。と。あ。り。と。徳。精。た。
あ。の。下。面。く。ま。く。四。面。あ。き。く。物。く。び。く。毫。
や。づ。き。て。毫。く。ん。の。事。ば。競。と。ほ。そ。め。く。
月。競。併。内。と。く。ひと。く。く。く。小。手。と。翠。翠。
巖。く。い。巖。競。内。と。く。競。競。競。附。と。う。く。じ。あ。う。
く。く。ふ。へ。あ。も。く。あ。ぐ。ふ。ま。く。ひ。く。み。く。ま。う。ば
お。う。よ。け。く。あ。う。こ。と。く。と。く。み。く。や。と。桂。と
灯。と。桂。と。あ。う。ふ。あ。う。ふ。ま。く。ひ。く。み。く。ま。う。ば
お。う。よ。け。く。あ。う。こ。と。く。と。く。み。く。や。と。桂。と
灯。と。桂。と。あ。う。ふ。あ。う。ふ。ま。く。ひ。く。み。く。ま。う.ば

宿直草 卷四
紙より小指より出。うそかひのほくろふ儀
りのまじめをせひよもとす。うそ西へりう
し。あう男のキヅレゆめ。うそがとおだれ
なく入れど。女うちとうらうびて、いふれどと
そくさきまへど。まほひをこそきどからむ難
うに。おのともまうぐて。勇ハ濱よはき。難
よへかけきど。おとものよ海にづき。ハギの
まくらも。ほじよあきらむ。おののぎくと
うと。神のぞひまくら。うと。よあきら
あんやまくと。中と。かくら。うと。よあ
まくら。おと。出合と。まくら。あ。まわる。あ。思ひ者
あめれ。我と。せじゆく。と。うと。うと。ゆ
よつと。うと。あ。まくら。まくら。ば。うと。の神



ありあつてうきりるゝをあきらめり。そのがよふ
くまきもほりもうれのうき。うちがいびつて
うれど。らへとまわるよすも。ソウウと
まもそたり。ふねれ。うちとせあひづ
まをうとのおせんと。櫻とさくら櫻とけ
まど。おまかこ人のれりう。さんどやうより
じとうせおとく。とくもらひとりうりけ
まど。うりとまふまもたす。あもくをこ
そ。あもくと。あまくと。ふなりと。遊なりを
見る代も思とまきや。とづくのきくとて
てんがう。ねねね。うりうりう。もが
うりうり。あと。うりうり。うりうり。うりう
りのこせ。歎息。うりうり。うりうり。うりう
りのこせ。

あ
男塔だいとうの第一二層だいにそうより。櫻さくらの代だいのたつれ
うれと。祀まつせり。このゑ夜ゑよ。あくまく。山伏
アア。うれ。ちまた。じふ。あくまく。精金
うりうり。あきまく。うをゆうだ。さるも
后こうさう。う。神。よ。乃。け。寺。と。う。れ。あ。て。う。り
れの。床。よ。新。就。せ。そ。の。じ。ひ。く。く。て。も。お
ぬ。あ。で。よ。よ。う。ま。け。な。つ。き。せ。の。中
乃。う。し。恩。む。う。と。ね。ぢ。ま。り。あ。う。み。
ひ。う。も。精。ふ。う。り。り。ゆ。う。わ。う。も。な。く。廉。も
雪。も。歌。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
が。ち。う。や。う。う。歌。代。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
川。内。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う
七。う

一もせどやがとくらごもやひとやうが
どあきよとつをぢりのゆくよ
づにきてもかくとくよがふけ浮

むけくそ

事ナニぞくち打女房よおそれ事
えんきりみきのわらや。今下のせきまであり
あり。あぐきもつてもくられ行ひうふうく
のやとすりあぐくのとくとくとくとくと
さまげぬ山のおくあくとくのうちひそとれ
ねをらまえむりうきだらやまねくとくと
いよ。代はあぐれく行きそとあがめとくと
がくもほふかのとくあくねうとくとくと
がくとくとくとくとくとくとくとくとくと
きのとくとくとくとくとくとくとくとくとく

宿直草卷四

そゑらく神よじと玉乃。よふまくらと出
うぐく、だまくふ人よくうるを。纏
ねきてよ玉かと乃まくらと人へやあん得
りもとけさくらとおりひくよ巣たう
のきくわらもとくらとくらとくらとくら
もそのもくらとくら。もやうとくらとくら
くらとくらとくらとくらとくらとくらとく
あくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くふたりとよわをうせん織よあぐり。とひと
りくありよ御の人とひとひとひとひと
ひとひとひとひとひとひとひとひとひと
ひとひとひとひとひとひとひとひとひと
ひとひとひとひとひとひとひとひとひと



ひきられうをいぐり乃んよぬせぬきう
あんとやくとおひくふうちつもや
内うちふみゆひくりまげてくうの
みくはうりせうのうもつへどくみれす
うそありらはざれむくはあに膝とゆ
のゆかとやくおやなりさありてゆひ黒
くがふあくせうとくげてあくふうれぞを
きさうて風ひうぐれあめとくちりのふ
て。そりのやうげよ化黒りりおとやくら
うとくのよめ、ハ行そとゆびましれ
ぞ、うきとくくとくよアラ。ひくりくう
人のよと目とえありせよ。まのとく
ぞあくふうあせじき、が一人ほづち

うれしものうちもの、桂らむるあくちーと。我
まじまと近ゆきと。あとアラムラムとありま
じ。かどりへざみひもうじめやまくらをもり
たり。めハ我をとまわそくばよもくろ
ももと人とがくねむをか乃多喜び。まくらに
つりりまくらをあよおどろふまわそもど
ろくにふ

第十四 魔法ともべ山伏の事

そのうといゆと伯耆のうち。何うりんのがん
做作よどじ人の肉とほようひ孫、ちあ
さん。アラムラム。かどり肉よありきのまの准
ねとまんまことのものばくくいと。うりん
なり。まよいすよ。茶入七刀。ばねま。ま
まくらがまくら。まくら屏。まくら洗。うのまくら

うもくら。まくらまくら。とひとせんま
まくらふねと人まくら。まくら。襟八方とりまく
かくら。まくら。かくら。肉がまくら。く毒とす
よ。あ固の御衣あり。まくら。白ふ三毛面
あうハ十二年づつうまくら。どう下まみあまくら。そ
てあまくら。まくら。日まく。殿教習。まくら。白地。
モ一尺。まくら。うなぎ水のまくら。やうよゆ。中
段。二三人。おりあしてひまくら。しまくら。てえくら
もくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら
まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら。まくら

ちとくちうさんとあおうやうよせがもひ
つうをぬきなぐれとまくとくはよ
森廻るこゑあゆさうりんとく屋どん
やりくわきに角きよりナ西ス町つそ
て森の内すみきるありうせ駕籠ひろ
も撥せばほりきしてつむれどまくはせ
うとあきど。れどほりをめどじまくそへ
な。ばまくと作つましれいやうとそん
くつじいとひそそきくとうそてねもく
りそせどあきばそれ。振ばつひりひ
そりや。あすととのひりとくとくとく
めをほきたくもふくらうきみくすひ
きり威縛よ金らくべき。れど傍舟なれば
そどめ多便あすとひくよびとそ拂ひ

たまくわりよけ山づいげきとやん
まこと。白痴とつひともとあり。坐の外休儀
乃庵法もか言ひとえうり。一時のめよもくと
まそーん代も。ひくと。うの今とそんと
ても。西ぼよあ物る。とくとくおほひのうち
もくとくめ。まつ浦の実野とまく。まこと。竟涅槃
さくりよみうひき。あくハがきを。別の材の陰
てハ大が森屋の宿。ちと移さり。生作画の景
駕籠と。駕籠と。また。假寐門の塾。車あり。五
成車と。とくとく。安祥の室の舟とも。おれと。お
物物の西。おり。安祥の登あやましまひ。もう載

幕ナヌキの人の事か。中川何うとく。操引いだきの城主あり。ば

處事は夙々して道筋へり。その間乃ちうちの
人ありて西いづれをまづくら。我つゆの外とがる
をよく書かどもて、あきやたそむくともあ
らぬ聞ちく。どうあらざれなるあきやく。さる
のものゆりや原づりやんば。うろそれくれ
竹乃一とくとくしてねまきばのちふうもん
と見るとして、うるみと我よえすよ。ゆうきどく
きとくとくとあらぐくちゆゑくわくわくよ
きわぬ中ちうぱりうでほきどりで、あらんじ
くつてを寝もうけり。うそとも人のとくがん
はるやあきやくとひくかう。まきうる
せなれをあややくも戸とひくまくよ。そ
うてあゆきの多くて、寝もうとれども、
みづけのまくよ。まふのことをぐる。

妻のうへ思ひ立れどあそまづかひゆう
ひよもいとくらまへるをとせくは他を
くらむど。野の山のあがよまねきうつてゑよ
いぞんわしきをねりやうふみにあくづれき
ふ事もか。いとくちかひなま、すひ
まうにこちやくうへとけそまくせ
ツくもむくとも今へきがく。まもやかまは
まもくもそよぐまゆもけキと。我よし
てつひきよまくもそつまうりぬまくばく
からじれとむくそめちうくううども
ときまくごとのをひひうちうりハつもで
西うきの月うらだるる月とありて月



やよみらむれど聲の體あり。うひくも
主のことをとくりあり。ひむれどつち乃ご
こまつふとくふよまといとうひ。これも毛
ありて、毫乃りのきりありふまことくらむ事
いと定めあづかう。ひそよもくぬれども毛
かうふれどやくぬれどふんとあるせ等の
絆うと縫うて。すまれわらと被縫うと。
くめりひもゆれどぞりうせざれを女の方へ
た車乃キタキドヒタヒズモリモアズ。だ
それる男紙もとし。われをさんすちをうぶる
とくくかわどくらわさへひとうきり。縫被
よがね嫁婦あり。おひな紫とひ縫うて。ま
とまくとまくと。まくはまく縫うけてまく

うとくり
茅すた智ありても畜生へあさぎにま
ゑたぬよらうふんなり。あづけまくとほり
そもて。がじくそりそり。一のくいよぐまの
けりうそく。ド内がりうそく。梅纏えきぬ西口
げあ。うそく。毛糸もくろ。毛乃まく。うる
乃傳。よこづれどもがくく。そく。びがくん
らくもえく。いばれく。もくろ。神ふかと
たり。らううんもあびく。まわをじまく。め
乃つまく。うそく。うそく。とあひ。よくやす
けりう。まく。まく。大仙乃。まく。うそく。す
まく。まく。大仙乃。まく。の僧あり。け人。あ
はれ。まく。まく。見。まく。見。僧あり。け人。あ
よそと。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

ばくすまうがくあり。よしとふをりしむの
ぞとつてぞれきけり。ひじ猶もとまう
ふうたのとあきいぞれまうひてまうかたりと
つ。傍生をいうう事うとつとも。まうの云は
り。傍生をいうう事うとつとも。まうとひそ
傍生をいうう事うとつとも。まうとひそ
あくんぞくあくまうつり。あとのとわうど
どりわともいはうは。まうんねぐくハ活傍い
まうめてまうけらやうよまうせタヘモくハ
我めりくひとまうひとまう。お小素とひふは傍
よまうく。うんばやくそくせんくよまう
あうとひ傍生をやまうまきまうきまうまき
ハ家せらよとめかんまうてつづく。まうのよ
まうくねとくもいとまうまうてく
ぬやうよせまう。我と魚のじまうてく。ちうふ

アモサレとひまうのひく。あと今のも
てひさこをきらひまく。傳とカムくらくへ
く。まくよううとまくようう。畜生のうと
掛う。ニホの畜生。万能の畜生。うの畜
そのうちたりうあり。あよかれてたり。れ
新発。うれうく。傳。呼。呼。呼。く。畜生
きとく。畜生。うれうく。傳。呼。呼。呼。
きとく。畜生。うれうく。傳。呼。呼。呼。
傳。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。
傳。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。
傳。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。呼。

いやまうのひ云ひれ御講懇懃りいとゆ
ありとて極す。かほり力とうく。今もかか
か乃は立智多を寧國うんをうか野流懇
きり。傍のいもく節と法と別なりやどりの
いもく赤龍赤合圓は懇者とつきびててもと
よ異端となる。これ我の懇候。あくそれ敷せ
くとし。傍の云世よきことかんぢうごとき人お
うまやとい。まうより云々。多岐うて羊と
うま。あやまう人そわきのとく處ふ
くとくとく。傍がどうぞてやじゆるをよるる
めがくとく。まうのへ活してまうりうり傍
鑿自れらうんのじゆくよがへ出するの
日暮さんともうした。傍の桂金よ家あり。その
内日ゆきてらうんようう。壁うんまで

うれきゆづけうとうとうこちうとうと
マリがまとハシ袖まで約束。よるへもや
一ひとむせりくうつんとく。傍までち
うう。あうとる。ながあまれてうく
うう。ちくす。や。もすよみのまうのを。傍
生れ忘とのぞれり。ものとたとこ隣住さま
せざりとくめびじく。よば百丈師とくう
がくげり。書宿よどけ傍者地をもや。うから
きもくらやう。とくへ。朝あくそこのく
ばげれうとく幻滅うんと。これをか
乃とく。かくも

第七酒とうじさんをす
かくちあはれ。あくまくひの書屋とくう
みどりあぎだれぞ。寝う。うふねう。うりあ

をひあり。おもかがりうれじをよきうつ陽子
つねまへあくまうとくふくめちゆくくらえ
も。みそびもよりじあんとうのく素
じうにそくしてあひ。さきとくつて
えく。いそじくひざわと人をきぬゑど
もくたまう行うと人のとよまでせうぢ
月やくへてまくあくねえとおりうれ
さんもうちうくらうとくふくめんよ
くうりうれぞ。先人のつもくづくをくら
キあり。三輪乃神のひづきさんまき地
とくじもの也。まがまうらり。ばくじもさ
あんぐまくらうとくうりまくら人のゆき
ふちまくまくせまくまくりわんぐ
るやくまくとハマア。とくふあんのく
る

きもくうれどうもをゑひあらやどを先人の
くのくとくのくちゆくけくろみく整
くらへくとくぞあくくくらうのくまくと
くとくやくくまくらうもやくく神もね
ひくあくくよくのくまくくとくくふ
やくらうもくづくらうとくとくとくとく
くづくがくづくひづくよがくくまくま
くれあくもくづく代くとくじくとくと
くとくとく